

心・技・体の成長を目指す

私は、大学を卒業後、一般企業へ就職しました。社会人になり最初に感じたことは「社会ではチャンスは不平等」ということでした。どんなに仕事ができても大きな仕事を任せてもらえなかったり、チャンスをもらえない社員もいれば、仕事は平均的でも確実にチャンスを手にしている社員もいました。私は、絶対に後者の様になりたい、なるにはどうしたら良いのかと双方をよく観察し、少ないチャンスを手にできる社員には必ず「周囲と円滑な人間関係を構築できる力」が備わっていることに気づきました。ではどのようにこの力を養うのか。私は大きく分けて「礼儀を徹底すること」「自分の気持ちを相手に知ってもらうこと（意識の共有）」に力を入れました。これらに気をつけることで挨拶・言葉づかい・気遣いを学び、自分に与えられた仕事をこなすことはもちろんのことながら、先輩上司、同僚、後輩がよりスムーズに仕事ができるよう、自分に何かできることはないかを考え、人間関係だけでなく仕事全体の活性化に繋がりました。教員になるという夢を持ち、教員となった今、これらの経験が私の糧となり、部活動の柱になっているように感じます。

本校バドミントン部は経験者ばかりではなく、初心者の部員も多く在籍しています。入部当初はなかなか思うように打つことができず、悩んでいた生徒たちも練習を重ね、技術の向上がみられ、試合に勝利する回数も増加しました。また、挨拶・言葉づかい・気遣いを学び、人間としても大きく成長しました。部員同士は先輩後輩に関わらずコミュニケーションをとり、休憩時には談笑する姿も見られ、練習中には部員同士がアドバイスをし合い、互いの成長を促すほど和やかなムードで活動しています。また、部員全体で一冊のノートを当番制でまわし、その日の練習内容・反省点・翌練習日以降の練習内容の提案をしています。さらに、毎月末にはミーティングを行い部員同士の気持ちや考えの理解を行うことで、より部員同士の絆を深めています。

東風高校バドミントン部ではこのように、技術面だけでなく、社会に通用する人間の育成を目指しています。